

『戦争』と『平和』が織りなす戦跡地

旧海軍司令部壕

JAPANESE NAVY UNDERGROUND HEADQUARTERS



那覇空港から車で15分

記念スタンプ



旧海軍司令部壕参観料

	大人	小人
個人	450円	230円
団体 (20人以上)	400円	200円

※大人(高校生以上)※小人(小学生~中学生)

旧海軍司令部壕
海軍壕公園
空港から車で約15分

開館時間 (年中無休)
8:30~17:30(7月~9月/18時閉館)
8:30~17:00(10月~6月/17時30分閉館)

交通
旭橋(那覇バスターミナル前)より
55・88・98番系統で宇栄原団地前
下車徒歩5分。那覇空港よりタク
シーで約15分。

海軍壕公園指定管理者
一般財団法人
沖縄観光コンベンションビューロー

お問い合わせ
旧海軍司令部壕事業所
〒901-0241 沖縄県豊見城市宇栄見城236番地
TEL(098)850-4055
FAX(098)850-9342
URL:http://kaigungou.ocvb.or.jp



海軍壕公園は那覇市の南西、豊見城の小高い丘にあり、東シナ海、那覇市街、首里城が展望できます。琉球王朝時代には、中国や薩摩からの船の入港を知らせる「火番森(ヒバンムイ)※」がここに置かれました。
また、第二次世界大戦末期には日本海軍の司令部壕が置かれ、激しい戦場となりました。現在では、沖縄から世界に平和を発信する戦跡公園として整備され、交流や憩いの場として広く親しまれています。

※琉球王国時代、船の来航を知らせるために島々でのろしを上げていた



エントランスゾーン
本公園のエントランスにふさわしいゲートプロムナードと、メイン、サブの2つの駐車場があります。



緑の森ゾーン
傾斜の続く緑豊かな広場です。休憩施設があり、北遊び広場にはブランコ等の遊具が設置されています。



Entrance Zone



戦跡ゾーン
詳しくは旧海軍司令部壕面をご覧ください



プレイゾーン
子供たちの遊びや憩いの場として、高低差のある地形を活かしたコンビネーション遊戯具など、楽しい施設があります。



お祭り広場ゾーン
地域の祭りなどの様々なイベントや軽スポーツなどの地域活動の場となる“お祭り広場”。広場は斜面緑地の森の小径など、散策を楽しむことができます。

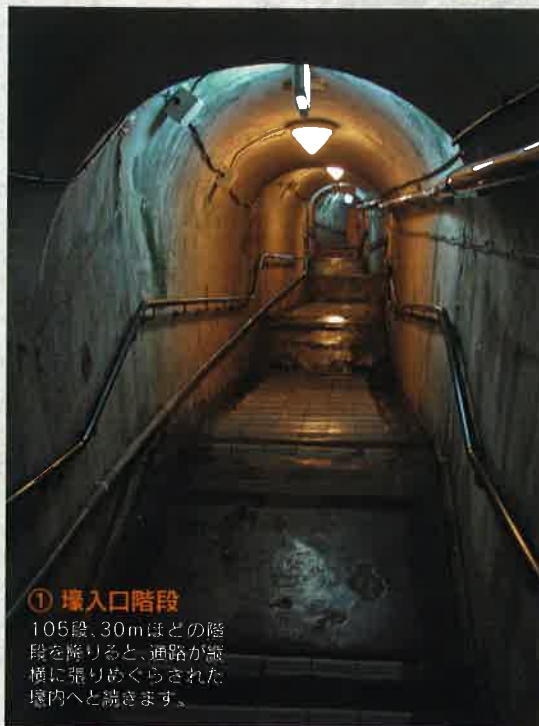


お祭り広場
サブ駐車場
OPEN 8:00
CLOSE 21:00

旧海軍司令部壕

JAPANESE NAVY UNDERGROUND HEADQUARTERS

昭和19年(1944年)日本海軍設営隊(山根部隊)によって掘られた司令部壕で、当時は450mあったと言われています。カマボコ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと坑木で固め、米軍の艦砲射撃に耐え、持久戦を続けるための地下陣地で、4000人余の兵士が収容されていました。戦後しばらく放置されていましたが、数回に渡る遺骨収集の後、昭和45年(1970年)3月、観光開発事業団によって司令官室を中心に300mが復元されました。



① 壕入口階段

105段、30mほどの階段を降りると、通路が縦横に張りめぐらされた壕内へと続きます。



② 作戦室

壁はカマボコ型に掘られており、防護のため漆喰で塗り固められている。



③ 幕僚室

司令官室・作戦室に近いこの部屋は幕僚が手榴弾で最期を遂げた時の破片のあとが当時のままくっきりと残っています。



④ 下士官兵員室

玉砕の近い6月ごろ、この部屋は立錫の余地もない程で、兵士たちは立ったままで睡眠や休息を取ったといわれています。



⑤ 司令官室

司令官室の壁面には「大君の御はたのもとに死してこそ人と生まれし甲斐ぞありけり」という大田司令官の辞世の句が残されています。



壕内の通路は迷路のようになっている

壕内見取り図及び順路

※車イス等でも参観できます。(要予約:出口から入場となります)



慰霊之塔

昭和33年、沖縄海友会ならびに海軍戦没者慰霊之塔建立発起人会によって建立。慰霊之塔前広場からは、首里城や那覇市街地が一望できます。

資料館

資料室内には、銃器や軍服など壕内より発掘された遺品や家族へ宛てた手紙など、旧日本海軍についての資料を展示しています。



壕内はすべて「くわ」や「つるはし」を使って掘られました。上部は、旧海軍司令部壕内から出た遺品、やかんや水筒、菓パンなどがあります。



家族へ宛てた手紙等



写真資料のほか、沖縄戦の経過が載せられています



大田實 東亜協会 講習会筆記



日本軍の銃器と手製の槍



大田實海軍少将

旧海軍司令部の司令官であった大田實少将はじめ幹部6名は、米軍の猛攻に昭和20年6月13日夜半、壕内で最期を遂げました。大田少将が海軍次官に宛てた、沖縄県民の献身的作戦協力について訴えた電報が残っています。

062016番電

発 沖縄根拠地隊司令官
宛 海軍次官

左ノ電■■次官ニ御通報方取計ヲ得度
沖縄県民ノ実情ニ関シテハ果知事ヨリ報告セラルベキモ
県ニハ既ニ通信力ナク 三二軍司令部又通信ノ余力ナシ
認メラルルニ付 本職果知事ノ依頼ヲ受ケタルニ非ザレドモ
現状ヲ看過スルニ忍ビズ 之ニ代ツテ緊急御通知申上グ
..... 中略

勤勞奉仕物資節約ヲ強要セラレツツ(一部ハ兎角ノ愚評ナキニシモアラザルモ)只管日本人トシテノ御奉公ノ護ヲ胸ニ抱キツツ 遂ニ■■■■■与ヘ■コトナクシテ 本戦闘ノ末期ト沖縄島ハ実情■■■■■■■
一木一草焦土ト化セン 糧食六月一杯ヲ支フルノナリト謂フ 沖縄県民斯ク戦ヘリ
県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ
註:■■は判読できず、意味不詳ですが原文のままとしました。

沖縄戦による戦没者数

全戦没者数	200,656名
● 日本側 (188,136名)	
● 他都道府県出身(軍人軍属)	65,908名
● 沖縄県出身(戦闘参加者)	56,861名
● 沖縄県出身(軍人軍属)	28,228名
● 一般沖縄県民(推計)	37,139名
● 米軍側 (12,520名)	

沖縄県平和推進班資料より

沖縄戦主要事項年表 (昭和16~20年)

昭和16	12月8日	真珠湾攻撃
昭和16	12月8日	太平洋戦争勃発
昭和19	4月10日	海軍 沖縄方面根拠地隊編成司令官 新重 忠雄 中退
昭和19	7月18日	東条内閣総辞職
昭和19	7月22日	小磯米内内閣成立
昭和19	8月8日	海軍 山根 龍典 海軍司令部壕の建設始まる
昭和19	8月8日	海軍 山根 龍典 海軍司令部壕の建設始まる
昭和19	8月22日	第32軍司令部官更替 牛島満中将が就任
昭和19	8月22日	学童疎開船対馬丸 悪石島沖で米潜水艦に撃沈される
昭和20	1月31日	第32軍現地第2次防衛白集決17才から45才までの健全な異性男子のほとんどを招集する
昭和20	2月15日	第32軍 戦術指針を呈下 軍民に示達 掃蕩1機1艦 船1艇1人10数1戦車を公示
昭和20	3月9日	東京大空襲
昭和20	3月23日	米軍 前線部隊 沖縄本島の襲撃を開始
昭和20	3月31日	米軍 前線部隊 沖縄本島の襲撃を開始
昭和20	4月7日	戦艦大和以下 沖縄救援の海上部隊 徳島湾で壊滅
昭和20	5月31日	米軍 首里を占領
昭和20	6月13日	沖縄海軍主力部隊司令官 大田實少将 小禄地区で玉砕
昭和20	6月23日	牛島司令官 兵参謀長厚文にて自決
昭和20	6月27日	久米島で日本軍による住民虐殺事件
昭和20	7月2日	米軍 沖縄戦終了宣言
昭和20	7月26日	対日ボツダム宣言発表
昭和20	8月6日	米軍 広島に原爆投下
昭和20	8月9日	米軍 長崎に原爆投下
昭和20	8月10日	日本政府 ボツダム宣言受諾 承諾し入れ
昭和20	8月15日	天皇 終戦詔書 をラジオから放送
昭和20	9月2日	日本政府 米艦 ミネソタ号 上陸降伏文書 印刷
昭和20	9月7日	琉球列島守備軍 手続の米第10軍司令部で降伏文書に調印